

# 薩南海域における近年のマサバの漁況

資源管理部 研究員 福元 亨介

## 背景・目的

薩南海域において漁獲されるサバ類はゴマサバが主体であるが、近年、春に漁獲されるマサバの割合が増加している(図1)。しかし、薩南海域におけるマサバの来遊等に関する研究は過去に例がない。そこで、マサバの漁場形成や来遊について検討し、知見の集積を図った。

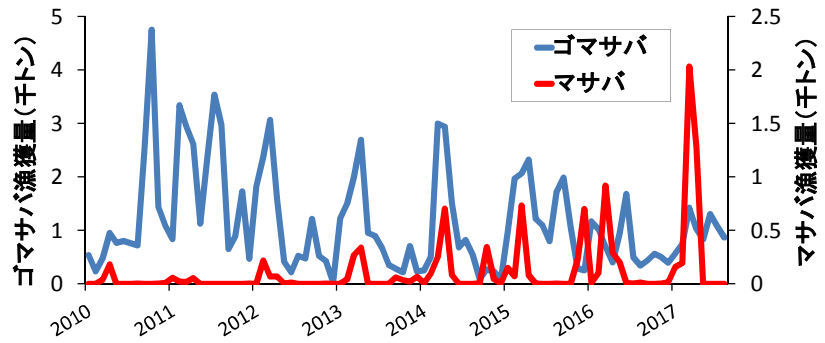


図1 サバ類漁獲量の年別月別推移

## 研究内容

- 漁場・・・50トン/月以上の漁獲があった地点をプロットした(枕崎漁港水揚げデータ, 図2)。
- 水温と産卵の関係・・・2.5トン/日以上漁獲があった地点の水温のヒストグラムを作成した(標本船操業日誌, 図3)。また、卵稚仔調査によるマサバ卵の採集状況をプロットした(図4)。
- 来遊経路・・・我が国周辺水域資源情報システムより、三重県以西主要県のマサバ尾叉長を抽出し、尾叉長組成の変化から来遊経路について検討した(図5)。

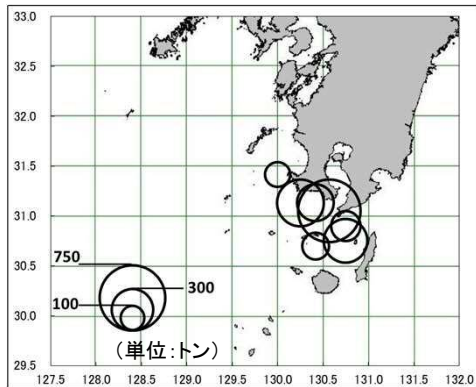


図2 2017年3月のマサバ漁場

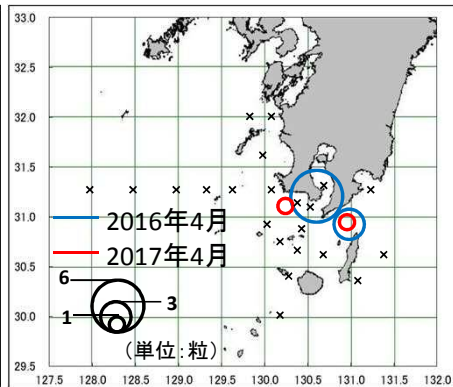


図4 マサバ卵採集状況  
(×は採集されなかった調査地点を示す)

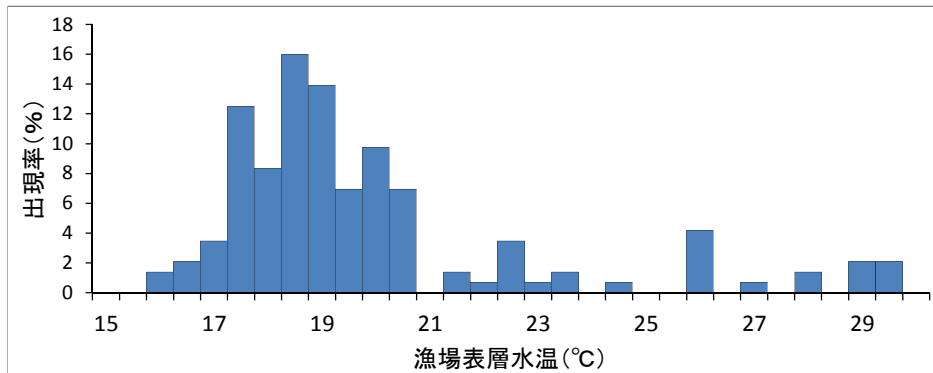


図3 マサバ漁場表層水温組成

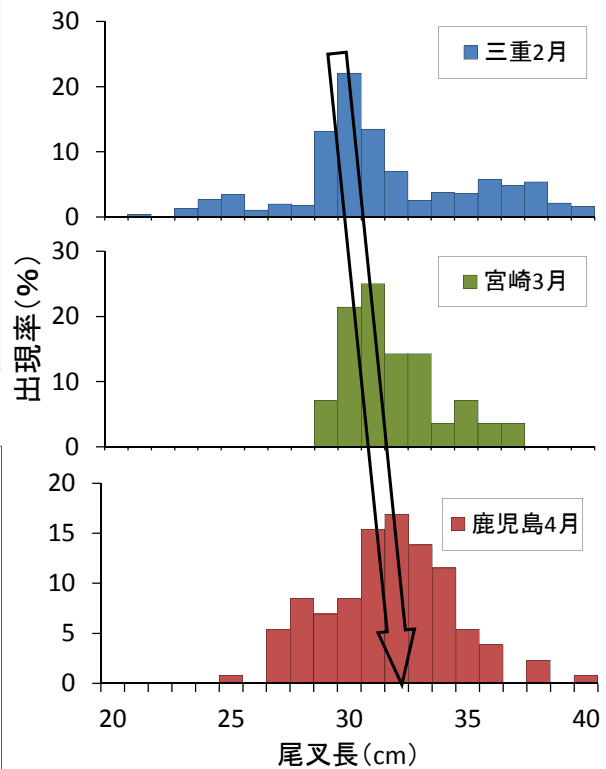


図5 三重県以西主要県におけるマサバ尾叉長組成(2017年2~4月)

## 結果と考察

- 漁場は鹿児島湾口部付近に形成、漁場表層水温は17~20℃帯が主体であった。
- 卵稚仔調査の結果や尾叉長組成の変化から、太平洋側から産卵のために来遊してきた可能性。産卵に適する表面水温は18~20℃であるという過去の知見(岡部他 2009)とも一致。
- 今後は餌環境や海流など様々な観点からも検討していくとともに、東シナ海側からの来遊や漁場形成等についても考察していく。